

スマート農業技術の実装

ねらい

農業従事者の高齢化や担い手不足が進む中、ブランド産地の維持を図るためにはスマート農業技術を活かした労力の軽減や効率的な増収を進めることが重要となる。

そこで、スマート農業技術の実装に向け管内施設園芸農家や新規就農者に対し、機械の導入支援及び技術習得支援を行うことで、スマート農業機械の普及およびスマート農業人材の育成を図り産地の維持発展を目指す。

活動地域・対象

吉野川市・阿波市施設園芸生産者

普及活動の目標

管内の施設園芸に取り組む生産者が施設園芸スマート技術講座を通じて、施設園芸の理想的な管理を学び、自らのハウス内の環境を把握することで、品目と時期に合わせた栽培管理を実現している。また、AI病害虫診断アプリや、安価で簡易的な温湿度測定機器など、導入しやすいスマート農業技術が生産者のレベルに合わせて実践されている。

(目標値) 環境モニター装置の導入戸数 50戸 統合環境制御導入戸数 10戸
スマート農業の人材育成 40名

目標に向けた活動概要

1 スマート農業機械の普及

(1) 環境制御装置の導入支援

栽培講習会で環境制御装置に関するアンケートを実施し、導入を検討していると回答した生産者に対し、安価なハウス内環境モニター装置や、AIによる病害虫診断技術の紹介を行いました。また、すでにハウス統合環境制御を導入している生産者については、巡回指導により栽培指導とデータ活用支援を行いました。



環境モニタリング装置↑

(2) 経営改善効果の周知

施設園芸スマート技術講座の受講後、フォローアップを実施し、スマート農業技術の導入や環境制御技術の実施による費用対効果を分析し、経営改善効果等の検討を行いました。

2 スマート農業の人材育成

(1) スマート農業実践者の支援

県農業大学校が実施する施設園芸スマート技術講座では、施設園芸の基礎を学べる入門コースと、品目ごとで実際に環境制御を行いながら技術を習得する実践コースが開講しています。実践コースの受講生に対し、巡回指導によるデータ活用支援を行い、受講生の技術習得の支援を行いました。

(2) スマート農業人材の増加

スマート農業技術に興味があり、導入を検討している生産者に対しては、施設園芸スマート技術講座の受講を勧めました。また、日々の巡回や講習会で、実際に導入している生産者のデータやデータの活用方法を共有し、生産者とともに技術導入に関する検討を行いました。

普及活動の成果

1 スマート農業機械の普及

(1) 環境制御装置の導入支援 (2) 経営改善効果の周知
データ活用技術の習得が進み、安価な装置を用いたスマート農業実践者が増加しました。

(目標達成割合：環境モニター装置の導入戸数 33戸/50戸
統合環境制御導入戸数9戸/10戸)



実践コース(いちご) ↑

2 スマート農業の人材育成

(1) スマート農業実践者の支援

現在、トマトおよびいちごで実践コースが開講しています。

(令和5、6年度は花きコースも開講)

トマトは、令和2年度の開講から現在まで、管内の先進農家が継続して受講しており、技術の習熟が進んでいます。

(目標達成割合：スマート農業の人材育成 36名/40名)

いちごは令和5年度に入門コースの各論として開講し、令和6年度から実践コースが開講しました。管内のいちご生産者が受講しており、環境制御技術の習得に向け取り組んでいます。



実践コース(トマト) ↑

(2) スマート農業人材の増加

スマート技術講座受講生は年々増加し、環境制御実践者が増加しています。生産者が環境制御の重要性を理解し、経営を考えるようになってきたと考えられます。

用語
説明

スマート農業：ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のこと。

今後の発展方向

1 スマート農業機械の普及

安価な装置の導入をきっかけとして、より高度な装置の導入も視野に入れて支援を行い、スマート農業機械の普及とスマート農業実践者の増加を目指します。

2 スマート農業の人材育成

施設園芸スマート技術講座の新規受講者の勧誘と継続した受講を支援し、管内生産者の栽培技術の向上を目指します。

関係者からの声

・環境制御装置を導入していたが、知識が伴っていなかった。スマート園芸講座を受講したことで、理想的な管理を理解できたので、効果的に機械を活用することができるようになった。

吉野川農業支援センター

連絡先：徳島県吉野川市川島町宮島736-1 tel：0883-26-3971